

手術器具 ICタグ管理

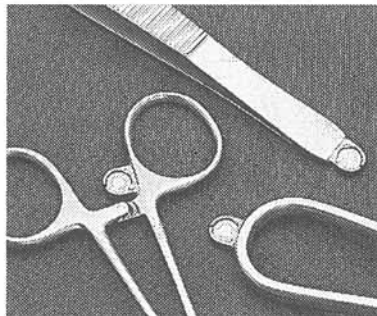
NECなど、医療事故防止

NECなどの産学チームは、ICタグ(電子荷札)を活用してメスなどの手術用器具を管理するシステムを開発した。手術の前後などでも多数の器具を効率よく管理。医療従事者の負担を減らし、医療事故を防げるという。9月に臨床試験を始めており、来年春をメドに事業化する。

川県大和市)、東京医療保健大学と共同開発した。KRDコーポのセラミックス製タグを器具に取り付け、タグ読み書き装置や管理ソフトと組み合わせた。器具をまとめて装置に載せれば本数や種類を確認でき、使用や滅菌の履歴も管理できる。基本システムの価格は約300万円を想定。タグは1個250円で提供される。

タグは金属製の受け皿にはめ込んで器具に張り付けるため、破損する心配は少ない。さびる恐れがなく、高温・高圧の滅菌や薬品などの影響も受けにくい。樹脂やゴム製の従来型タグよりも医療現場で使いやすいという。9月に済生会栗橋病院(埼玉県栗橋町)で始めた臨床試験で使い勝手確かめ、製品化につなげる方針だ。

セラミックス製のICタグを取り付けた手術用器具



器具は手術1回で通常100本以上使用する。大規模病院では10万本以上を保有しており、個別管理には膨大な手間がかかる。医療の品質確保には滅菌や補修、廃棄を適切に実施する必要があり、負担の少ない管理手法が求められていた。